

AA19980017J1

198.3.19. 朝日新聞

「脅された」中学生66人

守口市教委 ナイフ所持、小中で調査

ナイフによる子ども事件が相次いでいるため、守口市教委は市内の小中学生を対象にナイフに関するアンケートを実施し、十八日、その結果を発表した。男子の場合、小学生の二割以上、中学生の二割近くが授業で使う以外のナイフを持っていたが、多くは工作や野外活動のためと答えた。しかし少ないながら、「護身用」「かっこいいから」という子どももいた。市教委では、家庭や地域と

連携しながら、ナイフ所持が銃刀法違反であることを周知していきたい、としている。調査は市内の全小学校十校の五、六年生と、全中学校十校の全員を対象。二月十六―二十一日、各学校で無記名選択方式で実施された。中学生（三千七百五十四人）では、ナイフを持っていると答えた生徒は四百四十人（一一・七％）で、男子の一八・九％、女子の三

・九％に当たる。理由では、「工作用」「野外活動用」が三百四十人と大半を占めたが、「護身用」が四十人、「かっこいいから」が三十五人いた。

学校内で、ナイフで「脅された」生徒が六十六人、「脅した」と答えた生徒は二十八人いた。「ナイフ遊びをした」七十六人、「見せびらかした」四十七人だった。持ち物検査については、「必要」「安全のためやむ

を得ない」と肯定的な生徒が三〇・九％だったのに対して、「出来る限りすべきでない」「反対」が五一・七％と、否定的な生徒が過半数を越えた。

小学生（二千三百九十人）では、ナイフを持っている児童は百九十四人（八・一％）で、男子に限ると二二・七％だった。理由は「護身用」十人、「かっこいいから」七人。持ち物検査については、「するべきだ」「やむを得ない」が六五・五％で、「出来る限りすべきでない」「反対」が二一・九％だった。市教委は、「休み時間の実態把握などにも努めたい」という。